



瓊浦高等学校
学校通信
第67号

平成30年3月22日発行

電話 095-826-1261

FAX 095-820-5245

瓊浦窓 の

「 伝統文化の継承 」

教頭 小林 勝

長崎の街中でも外国人観光客の姿を見かけることが普通になってきましたが、昨年一年間に我が国を訪れた外国人の総数は2,869万人余りだそうです。その数が初めて一千万人を越えたのは2013年だそうですから、この4年間で何と3倍近くに増えたことになります。そして2020年東京オリンピックが開催される年には、確実に4000万人を越えるのではないかとわれています。

このような状況を背景に、最近日本を訪れる外国人を取り上げるＴＶ番組が数多く放送されています。日本を訪れる外国人の目に、日本という国がどのように映っているのか誰しも興味のあるところですが、外国人が感じる日本の魅力ベスト5というものを、私も勝手に作成してみました。

- (1) 和食やラーメン等に代表される優れた食文化
- (2) 歴史的建造物・温泉・スキー場等多彩で魅力的な観光地
- (3) 桜や紅葉、雪景色などの四季豊かな季節感
- (4) 時間の正確さ、快適さ、安全性など完璧な交通システム
- (5) 安心して旅行が楽しめる治安の良さや清潔さ

いかがでしょうか。異論のあるところかと思いますが、教育に携わる立場からすると、もう一つ日本独特の教育制度もあげたいところです。体育祭や文化祭等多彩な学校行事や活発な部活動、小中学校の給食制度など学習面以外での教育活動、特に生徒による清掃活動は海外からの評価も高く、積極的に取り入れている国も増えつつあると言います。我々が当たり前と感じているものの、外国の人から見ると素晴らしいと感じるものがたくさんあるんですね。

そしてまた、昔ながらの職人芸で支えられ脈々と伝えられてきた我が国伝統の文化・工芸品や日用品が、外国人に高く評価されているという話もよく聞きます。日本の近代化とともに西洋化が進む中でだんだん興味を示されなくなってしまった和風様式の様々なものが、外国人の手を借り再び輝きを増しているというのは奇妙ではありますが、うれしくなります。

ところで伝統文化と言えば、本校でも長崎の伝統文化の継承に取り組んでいるということ、保護者の皆様はご存じでしょうか。一つは「亀山焼」という江戸末期にこの地で焼かれていた陶磁器で、もう一つは皆さんもよくご存じの「長崎ハタ」の制作です。亀山焼きは、陶芸部や3年生機械科の課題研究で制作しています。長崎ハタは瓊浦祭でクラス毎に制作したり、情報ビジネス科の課題研究で取り組んでいます。これらの作品は瓊浦祭だけでなく、市民の方々への展示会も実施しています。長崎ハタは、歓迎遠足の際に唐八景で生徒諸君の手で揚げています。また若宮稲荷神社大祭では、剣道部や柔道部・サッカー部など運動部の諸君が神輿の担ぎ手をして活躍しています。

地方での若者の人口流出が年々進む中、本校卒業生の約6割は地元に残ります。まさに、これからの長崎の経済や文化活動の担い手とも言えるべき存在です。本校卒業生が、高校時代のこれらの経験を通じて、長崎の伝統文化継承の担い手として活躍してくれることを期待したいものです。

卒業式

第69回卒業証書授与式が、
3月1日(木)本校総合体育館において挙行されました。今年度の卒業生は普通科94名、情報ビジネス科42名、機械科145名の計281名です。生徒達は学年主任椎名研朗先生を先頭に緊張した面持ちで入場し、各クラスの担任より一人ひとりの名前が呼ばれました。そして学業で優秀な成績を収めた各科の代表3名が、卒業証書を受け取りました。

答辞は、龍馬コース機械科A組の島谷景介君。夏の県大会でベスト4に進出した野球部の主将です。体育祭や瓊浦祭、強歩大会など思い出深い3年間を振り返り、ともに過ごした同級生や後輩、支えてくれた家族、そして「人生の師」とよぶ安野俊一監督への感謝の念を述べました。

今年も保護者席の前にライブ映像用スクリーンを用意し、保護者の皆様にはお子様の表情をご覧いただきました。厳粛な式にふさわしい振る舞いで、立派に成長した姿をお見せできたのではないかと思います。

当日は多くの保護者の皆様にご列席いただき、ありがとうございました。今日まご支援・ご協力に対し、心より感謝申し上げます。これからも瓊浦ファミリーの一員として、本校を見守っていただければ幸いです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

～校長式辞より～

「矜持(きょうじ)」とは自分の能力を信じて持つ誇りです。

自分は価値ある人間だということを確信し、事実それに値する行動をとってもらいたいという思いからこの言葉を選びました。

そのためには何をなすべきか、青春をどのように過ごすかを考え、それを磨く努力をしてほしいと思います。

伝統ある瓊浦高校での3年間の学びが、皆さんにとって大きな生きる力となることでしょう。自信を持って突き進んでください。

これからの人生いろんなことが待ち受けていることですが、瓊浦高校の卒業生として、どうか「**矜持ある人**」として我が道を堂々と心豊かに歩んでください。

皆さんの将来が輝かしいものとなることを祈念しはなむけの言葉といたします。



強歩大会

3月3日(金)、強歩大会がおこなわれました。前日は嵐のような天候で開催が危ぶまれましたが、当日は強い風が残るものの、ほどよい気温の強歩日和。女子は本校を出発し女神大橋で折り返す20km、男子はそこから神ノ島をまわる30kmのコースです。生徒たちは体育の時間に走るなどしてこの大会に備えてきました。それぞれの体力に合わせたペースで歩き続け、また走り続け、時間はかかってもらほ全員が完走を果たしました。ゴール後の楽しみは、保護者の方々が用意してくださるうどん。生徒たちの表情は疲れからか暗くなっていたが、温かいうどんを食べて笑顔が戻っていました。今回も多くの皆様にご協力いただきました。お忙しいなか本当にありがとうございました。

総合成績

男子30kmの部	第1位	龍普1A
	第2位	龍普2A
	第3位	普1B
女子20kmの部	第1位	龍普1A
	第2位	情2A
	第3位	普1B
最速賞	男子	龍普1A



(主な行事) 4月

JAXA連携授業

2月27日(火)に、JAXAから竹前俊昭先生をお迎えして連携授業が行われました。今年度は龍馬コースの1年生はペットボトルロケット制作、3年生の龍馬コース機械科は缶サット(空き缶サイズの模擬人工衛星)制作に励んでいました。この日は1年間のまとめを発表し、竹前先生より講評をいただきました。今年度の反省をふまえて、来年度に繋がる良い授業になりました。先輩達の成果を引き継ぎ、来年こそは缶サット完成を目指します。



7日(土)	始業式・容儀指導(2・3年) 新任式・受納式 入学式・対面式 PTA入会式
9日(月)	オリエンテーション(1年) 部活動紹介 交通講話
10日(火)	勤労体験学習(3年)
11日(水)	宿泊研修(1年)(~13日)
16日(月)	避難訓練
17日(火)	第1回実力考査 進路適性検査 各種委員任命式
18日(水)	面談週間(~24日)
19日(木)	身体測定
20日(金)	歓迎遠足(市民の森)
24日(火)	心理テスト(1・2年) クレペリンテスト(3年)
25日(水)	心電図検査(~26日)
27日(金)	中間考査時間割発表

県内企業研究ツアー

3月14日(水)、情報ビジネス科・機械科の2年生を対象とした県内企業研究ツアーが開催されました。これは生徒の勤労観・職業観の育成、自己理解・就業理解の促進、県内企業に対する理解と就労意欲の向上を目的として、ヤングハローワーク長崎のご協力を得て行なわれるものです。参加企業は造船・食品製造・ホテル・サービス業など全部で13社。生徒は1人3社ずつ選び、体育館や教室に設置された各企業ブースを訪問しました。生徒からは「実際に働いている方たちのお話を聞いて新鮮なことばかりで楽しかった」との感想が聞かれました。多様な業種のブースに参加することで興味の幅が広がり、進路を考えるうえでとても良い経験になったようです。企業の方々からも「学生と接する機会があることはありがたい」「沢山の生徒さんたちの意見を聞く事が出来て良かった」などの意見をいただきました。求められる人材は「明るい」「元気」「誠実」「人の役にたちたいと思う人」など企業によって様々です。ぜひこの機会に自分の将来に真剣に向き合い、進路選択に繋げてほしいと思います。



美術授業 作品鑑賞会

美術を学んでいるクラスは3月14日(火)、長崎県美術館にて「長崎を愛した木版画家」田川憲作品展を鑑賞しました。田川憲氏は長崎出身の木版画家で、梅月堂のお菓子「南蛮おるごおる」のパッケージデザインをはじめとするいろいろな店のパッケージなどを手がけた、大変長崎に縁のある木版画家です。見なれたお菓子のパッケージデザインを手がけた人だとわかり、生徒たちは興味が一層わいた様子でした。また、他に常設のスペイン近現代美術作品を鑑賞し、普段入ることのできないバックヤードや屋上庭園の見学もすることができました。いずれも、ガイドの方よりそれぞれの作品の味わい方などを説明していただき、生徒たちはとても関心を寄せるとともに、生徒同士や中にはガイドの方を巻き込んで作品について話している様子が見られ、美術館の方々も感心していました。

陶芸・美術研修 in 宗像市

3月13日(火)機械科1学年全員で「優れた日本の芸術文化を鑑賞するとともに大陸から伝わった歴史について学ぶ」ことを目的として陶芸・美

術研修を行い、宗像大社(福岡県)を訪れました。宗像は古代より海上交通の要所だった場所です。敷地内にある神宝館(博物館)では、沖ノ島(2017年世界遺産登録)から出土した土器・馬具・銅鏡・工具など多くの国宝に触れ、機械科として物作りや芸術についての様々な考え方、解釈を学びました。

また、同日機械科2年生の41名は、来年度の課題研究「亀山焼」制作のリーダー養成として、有田の窯元を訪問しました。

